

研究分野	漁場環境	部名	浅海環境部
研究課題名	浅海定線調査		
予算区分	国補 (県1/2)		
試験研究実施年度・研究期間	S. 47 ~ H. 19		
担当	今井 美代子		
協力・分担関係	なし		

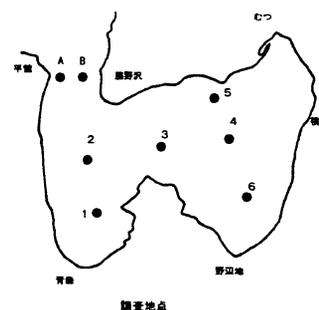
### 〈目的〉

本課題は、陸奥湾の海況の特徴や経年変動などを把握し、海況予報のための基礎資料を得ることを目的として実施し、本年度は継続32年目の調査年次であった。

### 〈試験研究方法〉

- 1 調査海域 陸奥湾内 St.1~6 の6 定点、湾口部 St.A,B の2 定点、計8 定点
- 2 調査回数・毎月1回
- 3 調査方法及び項目

- ①気象、海象 : 天気、雲量、気温、気圧、風向、風速、波浪
- ②水色、透明度
- ③水温、塩分 : 0m,5m,10m 以深は底層 (底上2m) まで10m 間隔
- ④溶存酸素量 : St.1~6 の20m 層、底層及びSt.2 と4 の5m 層



### 〈結果の概要・要約〉

#### ・2003年の海況の特徴

透明度の最低値は St.B の4月の7.0m で、最高値は St.A の2月の23.0m であった。

水温の最低値は、0m 層では全調査点で2月に、20m 層では St.1~6 で2月に、湾口部の St.A,B で4月に、底層では St.1~6 のうち St.2 のみ3月に、このほかは2月に、St.A は5月に、St.B は4月にみられた。湾全体の年間最低水温は0m 層、20m 層は St.5 の2月のそれぞれ2.60℃、2.50℃、底層は St.6 の2月の3.81℃であった。最高値は、0m 層では8,9月に、20m 層では全調査点で9月に、底層では9月~11月にみられた。湾全体の年間最高水温は、0m 層では St.6 の8月の23.40℃、20m 層では St.A の9月の20.98℃、底層では St.A の10月の18.65℃であった。年間の推移は、平年に比べ、1月はやや低め~かなり低め、2月、3月はやや低め、4月は底層付近でやや低めのほかは概ね平年並み、5月は30m 層以浅で概ね平年並み~高め、40m 層以深で平年並み~低め、6月は概ね平年並み~低め、7月は概ね平年並み、8月は湾の西側ではかなり低め、東側ではやや低め、9月はやや低め、10月は底層で平年並み~やや低め、そのほかはかなり低め、11月は平年並み~やや高め、12月は平年並み~やや高めであった。

塩分の年間の最低値は、0m 層では St.5 の9月の32.04、20m 層では St.6 の9月の32.93、底層では St.6 の10月の33.08 であった。年間の最高値は、0m 層では St.B の2月の34.06、20m 層では St.1 の8月の34.08、底層では St.B の8月の34.42 であった。年間の推移は、平年に比べ、1月はやや低め、2月は平年並み~やや低め、3月は概ね平年並み、4月は湾口部寄りの St.2 の30m 層以浅のみやや高め、そのほかは平年並み~やや低め、5月は西湾側の下層で高め、東湾側の上層で低め、そのほかは平年並み、6月はやや高め~かなり高め、7月は概ね平年並み~低め、8月は20m 層以浅でほぼ平年並み、その下層ではやや高め~かなり高め、9月は概ね平年並み、10月はやや低め、11月は湾の西側でかなり低め、東側でやや低め、12月はやや低めであった。

溶存酸素量は、St.4 の20m 層と St.4,5 の底層で4月に、このほかは1月または2月に年間最高となった。この後は低下傾向が続き、20m 層では9月に、底層では8~10月に年間最低となった。20m 層の最低値は St.4 の9月の6.96mg/l(飽和度93.7%)、底層の最低値は St.3 の10月の5.57mg/l(飽和度70.8%)であった。底層では St.3 の9月にも5.79mg/l(飽和度71.7%)と6mg/l未満となったが、水産用水基準記載の「底生生物の生息のために最低限維持しなければならない底層の溶存酸素量4.3mg/l」を充分満たしており、貧酸素現象は認められなかった。

〈主要成果の具体的なデータ〉

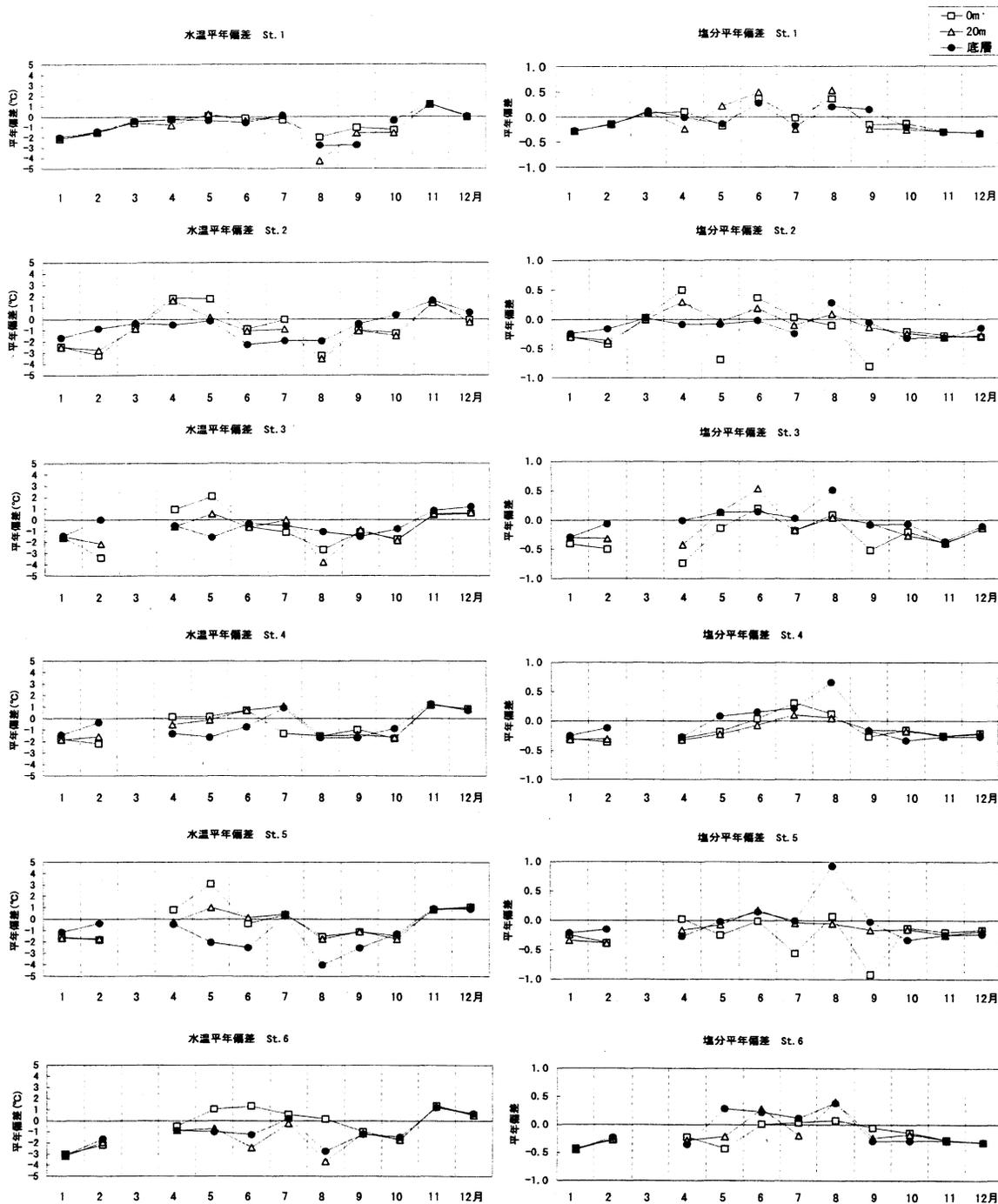


図 2003年の水温と塩分の年平均偏差の推移(年平均値は1972~2002年の平均値)

〈今後の問題点〉

冬期間に欠測が多く発生

〈次年度の具体的計画〉

調査の継続と特に成層期の溶存酸素量の監視強化

〈結果の発表・活用状況等〉

平成 15 年度報告書作成